

4 北洋における漁期の気象と海況 (1966)

進士福太郎 (気象庁)

1) 気象の概況

5月：上・中旬は高緯度に低圧部(500 mb, -150 m)、アリューシャンの南方海上に高圧部(500 mb, +100 mb)があつて、低気圧は高圧部に沿つてカムチャツカの東海上を北東進して上・中旬は時化したが、下旬には低気圧は40°N以南を東進して比較的穏やかであつた。漁場付近の月平均気温は例年より1~2℃低めであつた。

6月：5月高圧部であつたアリューシャンの東海上は低圧部に変わり、アラスカの東海上からベーリング海にかけて低圧部になつた。

しかし、漁場付近は北海道付近に中心をもつ高圧部下にあり、低気圧は漁場の東方で発達したため、漁場付近は晴れた穏やかな日がつづき、月平均気温は例年並であつた。

7月：中緯度高気圧は6月より強まり、高緯度偏差(500 mb)の負域はアリューシャンから南にのび、地上の負域もオホーツク海からアリューシャンの東部におよんでいた。

漁場付近は低気圧の通り道にあたり、時化模様の日や霧の日が多く、月平均気温は例年より1~2℃低めであつた。

2) 海況の概況

(本会報第2・4・7・9号の要領)

(1) 50°N線(160°~175°E)の表面水温と50m層水温

表面水温：6月以前は166°E付近を境にして、東高西低で7月以後は169°E付近を境にして6月以前とは反対に西高東低になつていた。

昨年より、165°~170°E付近は5月下旬頃まで、171°~174°E付近は6月中旬頃まで低く、その後一時的に165°E以東が昨年より高めになつたが、再び低めになつた。

50m層水温：漁期中5℃の水温がみられず、166°E以西は以東より1~2℃低い東高西低で、165°E以西は2℃以下であつた。

昨年より、全般に低く、6月中旬163°~166°Eと171°E付近は1℃以上低めであつた。

(表面水温で昨年より高いところが、50 m層では反対に昨年より1℃以上低めになつていた。)

(2) 167°E線(46°~53°N)の表面水温と50 m層水温

表面水温：6月上旬までは北高南低で、6月中旬頃は南北一様になり、6月下旬から再び北高南低になつた。

昨年より、50°N以北はやや高く(6月中旬51°N付近は1℃以上)、50°N以南は全般に低め(5月下旬48°N付近で1℃以上)であつた。

50 m層水温：漁期の前半は北高南低で、後半は50°N付近が高い中間高であつた。

昨年は3℃以下はなかつたが、本年は6月中旬までみられ、昇温が昨年より半月以上おくれていて、昨年より1℃ほど低めであつた。

ま と め

表面水温：5月は昨年より低く、6月は昨年よりやや高く、7月は昨年より低めであつた(1961・'63・'64年よりはやや高い)。

50 m層水温：各月昨年より低めであつた(1961年以降で一番低い)。